

研究発表Ⅱ

学校名 鶴嶺高等学校PTA

研究テーマ 「伝統行事継承と国際交流へのPTAの取組み ～自分で浴衣を着られたその先に～」

1 学校紹介

本校は昭和50年に設立され、今年で創立44周年を迎えました。生徒数は1,161名で、各学年10クラスの編成です。男女比は4:6で女子が多く、生徒の8割が自転車で通学しています。

今年度より新たに「グローバル教育研究推進校」に指定され、主体的な学びと高度なコミュニケーション力に裏打ちされた人間力を育成し、さらに海外帰国生徒や留学生の受け入れ、海外姉妹校との交流などを通じ、柔軟性のある国際化を志向することにより多様な価値観を受容していくことを目指しています。

2 部活動紹介

部活動は、運動系ではバレーボール部、ソフトテニス部、陸上部が関東大会に、文化系では文芸部が全国大会に出場するなど「勉強も部活動も行事も一生懸命に取り組む」をモットーに、生徒たちが積極的に活動しています。

3 PTA紹介

本校PTAは本部役員会と会計監査、4つの常設委員会ならびに2つの期間限定の特別委員会構成されています。

本部役員会では、PTA活動をスムーズに運営するために、全体の統括や対外窓口を務めています。また、文化祭のPTAコーナーを企画・運営する鶴嶺祭実行委員会への参加や保護者全体が参加できることを目的に来年度からのサポーター制度導入を目指して検討を始めています。

ふれあい委員会は、生徒の8割が自転車通学のため、地域の自転車商協同組合の方と共に自転車の不具合を見つけ整備に努め、また、事故対応カードを全生徒に配付し生徒の登下校の安全促進を図っています。特別養護老人ホーム「カトレアホーム」では

掃除のお手伝いや入居者の方々と共に歌や紙芝居を楽しみます。卒業式に向けては「出会い」の感謝を込めてコサージュを手作りします。人とのふれあい、出会いを大切に活動している委員会です。

広報委員会は、広報誌「つるみね」の企画・制作・発行を行っています。学校行事や部活動での生徒のイキイキとした様子、PTA活動の楽しい風景やその他、気になる情報などを写真やイラストなどで紹介し、興味を持っていただけるよう分かりやすい内容でお届けしています。

成人教育委員会では、保護者の方々の親睦を深めるためのイベントを企画運営しております。大学キャンパスツアーや社会見学ツアー、芸術鑑賞など盛りだくさんの企画を思考中です。また、鶴嶺高校の伝統行事「体育祭の浴衣踊り」に向けて着付け教室を開き、体育祭当日は生徒が自分で着られるためのお手伝いをしています。

環境整備委員会では、入学式や卒業式に会場の装飾を行ったり、各行事に合わせて玄関前のプランターや花壇の花の植え替えを行ったりしています。また、年に一度必要に応じて校内のペンキ塗りも生徒や先生方と一緒にしています。学校を訪れる方や鶴高生の皆さんに気持ち良く過ごしていただけるよう委員みんなで協力して楽しく活動しています。

4 研究発表

本校には「体育祭で全員が浴衣を着て踊る」という伝統行事があり、PTAとして「浴衣着付け教室」を開催し支援しています。本日は5年前に発表した「～自分で浴衣を着られるように～」での今後の3つの課題「自分で着られる生徒を増やす」「保護者の参加を増やす」「着付けの時間を増やす」について、どのように取り組み更に発展してきたかを「～自分で浴衣を着られたその先に～」というテーマで発表いたします。この活動をテーマに設定した理由は、

他校にはない特色ある活動であること、伝統行事の継承と国際交流へのPTAの関わりについて研究発表することで本活動を広く長く継承してもらいたいと考えたためです。



5 伝統行事継承

44年前は浴衣の着方は教師あるいは家庭で保護者が教えていました。ところが、時代の流れで浴衣を着られる人や着付けができる人が少なくなり、15年くらい前に「体育祭の浴衣踊り」存亡の危機をむかえました。それを聞いたある保護者から「着付けを教えているので、私でよければ教えることができます」と申し出があり、その年から浴衣着付け教室が始まりました。以来、プロの着付け講師を招いたり、PTA委員のOBの方にもご協力いただいたりしながら、有志保護者を対象とした着付け教室と生徒を対象にした着付け教室を行ってきました。

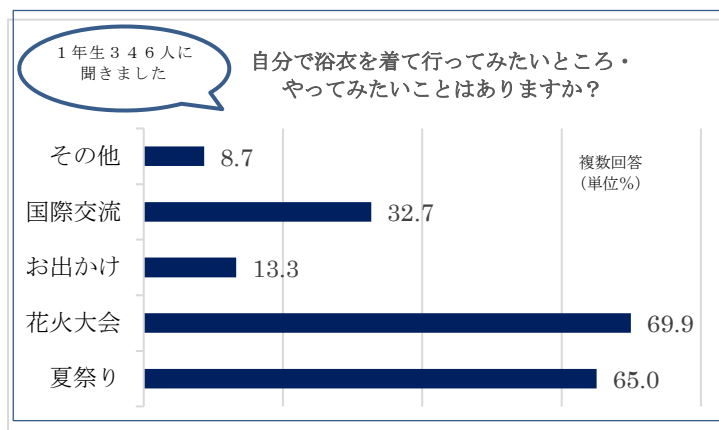
その後、外部講師に頼らず、成人教育委員会とふれあい委員会の委員向けに着付け講習会を3回実施し講師の育成を図り、現在では、講習会を全委員対象に広げ、受講した委員が講師となって有志保護者に着付けを教え、その有志保護者と共に1年生を対象に着付けを教えています。このように、前回の研究発表で課題としてあげられた「保護者の参加を増やす」に努めてきました。

また、「自分で着られる生徒を増やす」に対しては、生徒に「着せてもらう」のではなく「自分で着る」と意識してもらえるような声掛けを積極的に行って意識づけに働きかけるようにしたり、着付け教室での教え方を人に着付けている姿を見せ説明する形から講師が自分で着ながら説明する形に変えたりと工夫しました。

6 アンケート結果から見る「その先に」

45年目を迎えた今年、浴衣の着付けについて生徒や保護者がどのように思っているのか、再びアンケートを実施しました。

体育祭での浴衣踊りは、生徒も保護者も多数の方が継続を希望されていて、生徒も自分で着られるようになりたいと考えていることがわかりました。また、着付け教室については受講した生徒の約7割が浴衣の着方を「覚えた」「だいたい覚えた」、来年度の参加についても3割強が参加を希望するという結果となりました。また、着付け講習会に参加した保護者もほぼ全員が「参加して良かった」、7割の方が来年も「参加したい」と回答しています。



今回のアンケートでは生徒に向けて「自分で浴衣を着てやってみたいこと、行ってみたい所」について質問しました。結果は複数回答で、「夏祭り」「花火大会」が70%近く、浴衣踊り同様に本校の特色である「国際交流」と回答した生徒はおよそ33%に上りました。

7 国際交流へPTAの取り組み

本校では毎年3月と8月に海外の交流校訪問を実施しています。浴衣踊りは今や学校内での行事にとどまらず、海外へと活動の範囲を広げています。現地校での交流プログラムにおいて、浴衣を身にまと

い書道を披露したり、全員で民踊を踊ったりしています。

P T Aではその活動の一助となるよう交流校訪問に参加する生徒に向けて、特別の着付け教室を開催しました。そこでは自分で着るだけでなく、訪問先の生徒さんやホームステイ先の方に着付けをすることも想定して人に着付ける練習もしました。このように少しずつではありますが「着付けの時間を増やす」ことにも取り組んでいます。



生徒たちは鶴嶺高校への入学をきっかけとして浴衣を自分で着られるよう練習し、その日本の伝統を海外へと持ち出しています。また、自分が着られるだけでなく、人に着付けをする練習もして、現地の方々に浴衣を着る体験をしてもらっています。これはまさに全員が浴衣を持っていて着ることができる鶴嶺高校ならではの国際交流だと言えるでしょう。浴衣の着付けを通して、鶴高生と訪問先の皆さんとの絆が深まることをとても嬉しく感じています。

また、私たち保護者もP T Aの活動を通じて、浴衣の着付けを習い、ホームステイ受け入れ時には浴衣を着せてあげられるようになり、留学生にも好評を得ています。このように生徒だけでなく、保護者も「自分で着られたその先に」と活動を広げているのです。



8 今回の研究発表を通して

今回の研究発表を通し、先輩方の活動を振り返ることでやり残した課題について知り、あらためて活動の意義や必要性を認識することができました。また、アンケートに寄せられた賛意や労いの言葉の数々が本活動に携わる委員らのモチベーションアップになりました。

一方で引き続き取り組む必要のある課題も見つかりました。現在、1年生に対しては体育祭の前に全員参加の着付け教室を実施していますが、2・3年生に対しては時間の確保が難しいため実施できていないのが現状です。また、講師や生徒が自分で着るためのお手伝いをする保護者の数も年々微増しているとは言え、まだ十分ではありません。この点については今後もP T Aで協力し知恵を出し合い取り組んでいきたいと考えます。

本校にはP T Aの同窓会「つるみね会」という互助会的存在もありこの活動も支えていただいています。そのご支援に改めて感謝したいと思います。また、このような研究発表の機会を与えていただきました皆様に深く感謝申し上げます。

9 まとめ

鶴嶺高校は、他者を尊重する豊かな心と健やかな身体を育み、国際感覚豊かな教養を備えた人を育てること、そしてグローバル社会で想像力とコミュニケーション力を育てることを目指しています。そのために、すでに学んだことを着実に身に付け、確実に前進する力をつけるための取組みや高校卒業後も生涯にわたって学び続ける姿勢を持てるよう、P T Aも学校と連携・協力して教育の充実に尽力して参ります。

【助言者講評】 湘南高校校長（稲垣一郎校長）

ご紹介いただきました湘南高校校長の稲垣でございます。今日は楽しくもまた伝統的な事を一生懸命やられていることがよくわかる発表して頂きまして本当に有難うございました。講評などと言う偉そうなことではなく感じたところの部分お話をさせて頂ければという風に思います。まずですね、非常にある意味で見えて驚いたのは開校以来ですかね、ずっとこの浴衣踊りを続けてこられたのでしょうか、これをずっと続けてこられているってということに関しては素晴らしい事だなという風に思っています。高等学校っていうのは現在 142 校あるわけですけども、その 142 の中でも色々な特色を持っています。鶴嶺高校はご紹介頂いた通りのところで今年からグローバル教育研究推進校にもなられてますけれども、名前は変わってますけど、昔から国際交流含めてですね英語を懸命に取り組まれている学校だということは存じ上げております。そういう中で一番最後のスライドショーの所にも出てまいりましたが昭和の 58、9 年 60 年辺りのものもございましたね。私が教員になった頃であります。その時からやられてるってそういう話だと思います。教育はですねご承知の通り、実はかながわ教育ビジョンというものがございまして神奈川県全体の中のところでどんな形でものを考えながら教育を進めて参ろうかというところ一つの大きな中期展望がございまして。その中にも出てくる言葉ですが、実は不易と流行という言葉があります。不易と流行つまり変わってはいけないもの、それから時代に依じて変わっていくべきもの、この両方があるね、そういう中で学校というものはおそらくはこの湘南高校もそうですけども本当に教育の中で根幹となるもの、どこか変わっていつてならないところがあるんですね。ではなぜゆえに鶴嶺高校は浴衣踊りだったんだらうかってことを拝見しながら見ていたんですけども、おそらくはやはり、あの発表の中にも国際的な感覚を身に付けていく中で多分、昔の校長先生たちや職員の方が考えられたのは、それであるならば逆に日本というところの伝統的なものの考え方をしっかりと、生徒に多分位置付けていこう、それがなければおそらくは

国際交流といってもそれだけになってしまうのではないかというところをすごく考えられた結果なんだなあというふうに思っております。実にあの本当にある意味ではですね浴衣踊り、パッとそれだけ聞くと盆踊りをやってんですかっていう風に見えてしまうのかもしれない。でも実はそうではなくておそらく教育の根幹、それをずっと鶴嶺さんがやられてきてるということだと思います。で一番その中で素晴らしいなという風に思っているのは、5 年前の発表を含めて今回のところでもしっかりと生徒さんたちにアンケートを取られた。それがどう変化しているかっていうところも考察をしていただいたところは、やっぱりすごく重要なことです。世の中、最近は雰囲気生きていけるわけではないので常にエビデンスということが問われます。そのエビデンスというのはやはり数的なところでの処理ブランクってすごく重要なものなんですね。その中でも今回の中で生徒さん達が国際交流そこで浴衣というものを着付けして自分たちが着ていくっていうことができるということの中ではそれがすごく自分たちの中で国際交流っていう中でやってみたいなっていう風に生徒さん達が回答している、これはまた素晴らしい、多分成果だと思います。で学校の中ではお話があった通り 1 年生には全てやってられて 2、3 年には少し時間がないので今後の課題だというふうに仰られていましたけれどもおそらくですね、1 年生の子が 2 年になり 3 年になり順番に自分たちで着れるようになった結果のところ少しデータがという話も、これも考察としてありましたけれどもあの鶴嶺を卒業していった子達にとってはやはりこの浴衣踊りというものがすごくいいものだ、自分たちの学校で誇れるものだということにおそくなっていることだと思いますし、もっと言うのですね P T A 活動って根本的になんなんだろ、私も学校長として本校の P の方々ともお話をする機会が多々ありますけれどもやっぱり学校のものの考え方を何らかの形で P T A の方々が補強してくださるといいですか、下支えしていただいている。これはすごくいいことだと思います P T A の活動の中で色々な委員会がありますが流れている一つの潮流ってんでしょうか、そこを補強して頂いているってということにつ

いては P T Aのこれ本線だと思っけてますので是非
ですね、今後も続けていただけて生徒さん達とのお
話の中にもありましたが本当にお祭り行ってきて笑
顔で取り組んでいただけると本当にありがたいなと
いう風に思ったのが感想でございます。では最後
になりますけどもこのところで実は藤沢工科さんが
話になったところのエコの話でもあるんでしょけ
れども、先般、すごく気になっているのは環境サミ
ットでねグレタさんっていう少女が大人の山ほど
いるその中で彼女が語った事って相当、インパクト
ありましたよね。で彼女が使った英語での全ての方
ですけども英語の forgive という言葉を使ったね。す
ごいですね。forgive って許さないってことですか
らね。何に対して許さないんだ。大人がこのま
まのことをやり続けたら私たちは許しませんよって
いうことをこの前お話しをされましたよね。わた
したち大人なんですよ。 P T Aの今日、来ていただ
ける方々もみんな日本を作ってる大人です。私
たちが教育をしている生徒さん達、それからお
子様方、その方々が皆これから先に生きてい
く上で私達の P T A活動っていうものがそれが
当然、Tも含まれますけども、その中のとこ
ろで子供達に大人を許しませんよなどと言
わせてはいかんのですね。私たちは子供
たちのために日夜、教員は努力しますし、更
に言うならば皆さんの中のところの保護者
の方々も学校教育の所に今後もこれまで同
様一生懸命取り組んでいただけると大変あ
りがたいと思っけています。どちらかとい
うと感想めいたことばかりで申し訳ござ
いませぬ。今後も是非ご努力ください。よ
ろしくお願ひいたします。ありがとうございました。